



Graded Readers

グレイデッド・リーダーを 上手に生かすための日本語版ガイド

ロブ・ウェアリング、高橋幸子
〈ノートルダム清心女子大学〉

オックスフォード大学出版局

オックスフォード大学出版局
グレイディッド・リーダーの使い方ガイド

目 次

聡子のリーディングの問題点	p. 1
日本人学習者が読む典型的なテキスト	p. 3
精読	p. 5
多読とは、何でしょう？	p. 6
グレイディッド・リーダーとは、何でしょうか？	p. 9
どんなリーディング・スキルや方略が必要なのでしょうか？	p. 14
学校のカリキュラムに多読をどのように組み込んでいけますか？	p. 15

聡子のリーディングの問題点

誰もが抱くこの疑問をよく表しているのが、ある教員と聡子との謝恩会での会話です。これを読んで、なにか、気づくことはないでしょうか？

先生：卒業、おめでとう。

聡子：ありがとうございます。

先生：君は、文学を専攻していたんだよね。

聡子：はい、アメリカ文学をやっていました。

先生：そうか。どの作家が一番気に入ったかな？

聡子：えー、スタインベックだけをやっていましたから。

先生：ふーん、で、スタインベックの何を讀んだの？

聡子：あのう、1冊しか読んでいないんです。

先生：えっ、1冊？

聡子：難しい単語が多すぎて、本が書き込みで一杯になるくらいでした。辞書を引くのに、何時間もかけたんですが、それでもまだ、よく理解できませんでした。

先生：ふーん、大変だったんだね。

聡子：よく理解するために、日本語訳も使わなければならなかったんです。実際、訳がなかったら、卒業は出来なかったでしょう。

先生：どのくらいかけて、一冊を読み終えたの？

聡子：3年生の時に読み始めて、1週間に4ページから5ページずつ訳して、詳しく読み込んでいきました。2年間はかかったと思います。でも、結局は最後まで読み終わりませんでした。最初の章だけでも、6ヶ月はかかったんですから。

先生：1冊に2年間！そんなに苦労して訳した後では、よく理解できたんだろうね。

聡子：いいえ、それでも、よくわからないんです。

先生：でも、もうこれで君も卒業したんだし、自由な時間も出来るんだから、今度は原書でアメリカ文学を讀んでみたら？

聡子：とんでもない。私には難しすぎます。英語の本はもうこれっきりにします。代わりに映画を見ることにします。

子供達が母語でリーディングを学んでいく際、簡単な本から段階を追って、少しずつ難しい本へと移行していきます。同じように、このことは英語のような第二言語を学んでいく人にとっても、必要なのです。どうやら聡子には、そうしたリーディング・スキルを伸ばしていく機会がなかったようです。彼女のリーディングの問題には、おそらく次のような要因があるのでしょう。

- 適切なテキストを十分に読んでいなかった。
- 難しい単語が多すぎるテキストを読み、自分のレベルに合ったリーディングをしていない。
- リーディングの訓練を受けていない
- 読むことを楽しんでいないし、英語を読む自信がない。
- 英語で流ちょうに読んでいく段階に達していない。
- 読みの方略やスキルが大事なことを理解していない。
- 適切でない語彙や文法を覚えることに時間をかけすぎている。
- 読解をチェックする方法は訳だけだと思っている。
- 難しいテキストを読むことが読解力を伸ばすことだと思っている。
- リーディング能力を伸ばす際の学習目標を持っていない。

日本において、聡子の例は決して珍しい話ではありません。彼女のように学習のスタート時に、英語の原書を読みたいと希望に燃える人は、何千人といるのです。しかし、読んでいくうちに挫折してしまい、最初の情熱を失ってしまうのです。

まず、聡子のリーディング能力と、リーディングのクラスで学習目標としていることとの間に、ギャップがあります。聡子の懸命な努力にもかかわらず、ネイティブ・スピーカーが読むレベルの本を一冊訳していくのに、2年間もかかってしまったのです。その結果、聡子はアメリカ文学を読む熱意も、読む自信もすっかり失い、これから先、英語の本を読もうとはしなくなりました。聡子の失敗の最大の原因は、彼女のレベルよりずっと上の難しすぎるテキストを読んでいる点にあります。聡子にとって、英語で読み進むことは、死にものぐるいの戦いであり、その戦いに聡子は敗れてしまったわけです。

第二に、リーディングにおける流ちょうさを伸ばしていくために大切なことは、簡単なテキストを選ぶことだということが聡子は分かっていなかったようです。リーディング・スキルを伸ばすよりも、訳すことが英語を読むことだと思っているようです。

第三に、聡子は様々な種類のテキストを読んで、英語の違った書き方に慣れていないようです。最後に言えることは、テキストによくわからない要素（例えば、知らない単語）が出てきた時に、対処する様々な方略を訓練していないことです。知らない単語が出てきた時の唯一の手段は、辞書を引くことだったのです。聡子にもっと訊いてみれば、別の問題点を発見できるでしょうし、英語で読む場合の姿勢についても、気づく点が出てくるでしょう。

聡子の問題についていえば、それまでの教師の教え方が悪かったわけでは決してないので

多読においては、全ての学習者は自分のレベルに合ったテキストを読んでいます。学習者は自分の読みたいものを選ぶので、リーディングにおける流ちょうさと自信を得ることができます。

す。教師が教室で起こることの全てをコントロール出来るわけではありません。例えば、決められているカリキュラムの中では、教えておかなければならない言語項目がたくさんあり、前に学習した項目を復習したり、リーディング・スキルを伸ばす練習をする時間はほとんどありません。

多読によって、学習者は自分のレベルに合った簡単なテキストをたくさん読み、授業中に学習したことを復習するという素晴らしい機会を得ることが出来るのです。実際のリーディングは授業で行われるため、授業時間をあまり取らないことが、多読プログラムの最大の利点となります。

一番大事な学習項目とは、昨日習ったことだというのが、言語学習における鉄則です。

この小冊子の目的

この小冊子の目的は、グレイディッド・リーダーを使った多読を紹介することです。そして、それがどのように、リーディング・プログラム全体に当てはめていくのか、以下の点を検討していきます。

- 多読の重要性と、全ての学習者にとっての必要性について説明します。
- 多読がなぜ、どのように機能するのか、説明します。
- 教師が、多読をどのようにして始めればよいかを紹介します。
- 日本人学習者にとって、次の点でバランスの取れたリーディング方法を提案します。
 - ・自信を持って、スムーズに読むこと。
 - ・自分のレベルで読むこと。
 - ・リーディング・スキルを伸ばす様々な方略の重要性を知ること。
 - ・例えば、知らない単語をうまく推測する、テキスト構造を学ぶ、辞書の上手な使い方などを学ぶ、などです。

日本人学習者が読む典型的なテキスト

多読について説明する前に、日本においてよく行われているリーディングについて、知ることでも大事な点です。英語のリーディングの時間に多くの日本人が使う読解テキストの見本を見てみましょう。もちろん全てのリーディング・テキストがこれと同じではありませんが、次に挙げるのは、英語のテキストの典型的な例です。皆さんも読み進むうちに、普段使っているテキストとよく似た点があることに気づくことと思います。

The Life of Helen Keller

Pre-reading questions

What do you know about Helen Keller?

Why was she famous?

When did she live?

Now read the text.

Helen Keller was a renowned American authoress who wrote widely on educational and political matters. However, she is most well-known for being blind and deaf. She was

born on June 27th, 1880, but when she was about a year old she came down with a terrible illness, which lead to her becoming blind and deaf. When she spoke she could only utter noises like a bird and in her frustration she even struck her parents. Her parents could not cope with her handicap and did not know how to lead her. They eventually found her a teacher called Annie Sullivan. Annie Sullivanetc. etc....

Vocabulary

Frustration (欲求不満) Eventually (結局) Handicap (障害) Widely (広く)
Authoress (女流作家) Renowned (高名な) Cope with (対処する) Illness (病気)

Comprehension questions

- 1) When was Helen born?
- 2) What was her problem?
- 3) Why did she hit her parents?
- 4) What was her teacher's name?

Put these words in order.

- 1) deaf was Helen blind Keller and
- 2) Sullivan teacher's was name her Annie

Translate these sentences in to English.

- 1) ヘレンは、見ることも聞くこともできなかった。
- 2) サリバン先生に助けられて、ヘレンは高名な女流作家になった。

Translate these words into Japanese.

- 1) widely
- 2) come down with
- 3) struck

ヘレン・ケラーのテキストにある特徴は、高校受験、大学受験、TOEIC、TOEFL、英検用のテキストによく見られるものです。こうしたリーディング・テキストには、いくつかの章が用意されており、それぞれの章は違ったトピックを扱っています。

こうしたテキストについての特徴として、次のような点が挙げられます。

- 教材は、ふつうは学習者でなくて教師が選ぶ。
- 全ての学習者は、同じ教材を同じ速度で読む。
- テキストの長さは、極めて短い（通常 300 語以内）。
- 語彙と文法を覚えるために、テキストが使われている。
- 難しい単語が多く使われている（目的はそうした単語を教えること）。

- 語彙は、訳によって教える。
- 読む前にタスクがある。
- どのくらい理解できたかが、テストされる。
- リーディングの後には、文法と語彙の練習問題がある。
- 新しく学習した語彙は、後の章でほとんど出て来ない。

精読

ヘレン・ケラーの生涯のようなテキストを読む目的は、リーディング・スキルを伸ばすことではなくて、リーディングを通して文法や語彙を学ぶことにあります。学習者はテキストの中の文法や語彙に注意を向けて読んでいきますが、このようなリーディングは精読と呼ばれます。精読の目的は、リーディング・スキルを伸ばすことではなくて、言語の知識を増やすことなのです。それと反対に、多読はリーディングの際の流ちょうさや自信をつけることを目的としているのです。

とはいっても、精読から得られることの価値は十分にあります。学習者にとって、精読は次のような利点を持っています。

- いくつかの新しい語彙に出会う。
- いくつかの文法事項を学べる。
- テキストのトピックに関して学べる。

しかし、この種のテキストには、次のような欠点もあります。

- 極めて短いテキストしか紹介されていないので、リーディング・スキルを伸ばせない。
- ほとんどの単語を知らないなので、眼の動きが遅くなり、読みが遅くなる。その結果、学習者は早くスムーズに読むことが出来ない。
- どの文にも難しい言語項目があるので、そのために辞書を使うことになり、読みを中断してしまったり、センテンスごとの理解だけに留まってしまう。
- 全ての学習者が一斉に同じ教材を読むので、自分のレベルで読むことが出来ない。
- 教師が選ぶテキストなので、学習者にとって必ずしも楽しいものではない。
- 読むテキストの量が少ないので、英語の典型的なパターンを学習する機会が少ない。
- 学習者は、読んだものの全てをテストされると思いこむかもしれない。

精読は必ずしも悪い方法ではありませんが、精読が目指している目標によっては、限界が生じてきます。使用されているテキストのタイプやタスクの種類によって、こうしたことが起きるのです。精読に加えて、スムーズに読めるための訓練とリーディング・スキルの育成が必要となるのです。この点については、また後で触れることにします。

英語のリーディングを学んでいる学習者にとって、リーディングとは何でしょうか？

英語で読むことを学び始めたばかりの学習者の頭の中で、どんなことが起こっているのか見てみましょう。次の文章を読んでみて、あなたの頭の中で何が起こっているのか考えてみて下さい。

The English Lake District
The English Lake District is renowned for its beauty and poetry. It is well-known for small attractive villages such as Ambleside, Grasmere and Penrith. Lake District has attracted tourists from all over the world. It is well-known for small attractive villages such as Ambleside, Grasmere and Penrith. Lake District has attracted tourists from all over the world. It is well-known for small attractive villages such as Ambleside, Grasmere and Penrith.

これは極端な例ですが、この「湖水地方」のテキストを読んでみて、以下のことがありましたか？

- 一個一個の文字に眼が行き、それから、単語を作ろうとはしませんでしたか？
- 一個一個の単語を読んではいませんでしたか？
- 短い単語など、簡単に読める単語もあれば、難しいと思う単語もありませんでしたか？
- テキストの最後までたどり着いたときには、はじめに読んだ内容を忘れてはいませんでしたか？
- テキストの何カ所かを繰り返し読んでいませんでしたか？

英語を学び始めたばかりの人は、ヘレン・ケラーの生涯を読みながら、こうしたことを経験しているのです。これは単語から単語へと読んでいくリーディングです。この種のリーディングでは、単語を認識するのが遅く、しかも労力がいらいます。それなのに、内容の理解は十分には行われていません。あまり難しすぎるリーディングは、聡子の例のように、学習者の意欲をくじきます。学習者はスムーズに読んでこそ、内容を理解することができるのです。

聡子の問題とその解決法

これまで聡子の問題を考えてきましたが、リーディングを教える教師には何が出来るでしょうか？また、聡子自身は何が出来るでしょうか？

聡子が、ヘレン・ケラーのようなテキストや難しいアメリカ文学の本ばかり読んだとしたら、リーディングの速度を上げることは難しいでしょう。なぜなら、難しい単語が多すぎるからです。こうした単語によって、速く読んだり、内容を理解して読むのに必要なスムーズな眼の動きの訓練を妨げられているからです。聡子はリーディング・スキルや方略を育て、多読プログラムのグレイディッド・リーダーをたくさん読み込むことで、速く読んだり、内容を理解して読む能力を伸ばすことが出来るのです。

多読とは、何でしょう？

多読は、グレイディッド・リーディングとしてよく知られていますが、第二言語でのリーディングを習得する際の一つの選択肢です。

- 多読においては、学習者は莫大な量の簡単なテキストを読み込むことによって、スムーズに自信を持って、そして楽しく読めるようになるのです。
- リーディングのほとんどは、授業外で行われます。
- 学習者は、現在のレベルのテキストを読んでいるので、リーディングのスピードや自信

や流ちょうさを向上させることが出来るのです。

- 学習者は、それぞれ他の学習とは違った本を読みます。
- 教師ではなく、学習者自身が本を選ぶのです。
- 新しい言語項目を学ぶことに焦点が置いているのではなく、全体の理解と読みの流ちょうさを伸ばすことに焦点を置いています。
- 学習者の興味を引く幅広い種類のテキストが選べます。例えば、ミステリー、詩、スリラー、探偵小説、面白いトピックのノン・フィクション、『ロビンソン・クルーソー』や『イギリス人の死』といった英文学古典の簡易版があります。
- 学習者はたくさんのテキストを読むので、最も大切である語彙や文法に何度も触れることとなります。これによって学習者は、その言語に関する知識を深めていくことが出来ます。
- 多読では、ふつうは他の言語テストのような試験をしません。しかし、どのくらい読解できているかどうか、ある程度チェックすることも必要です。

学習者は、多読だけでリーディング能力を伸ばしていくことができるのでしょうか？

いいえ、それだけでは十分ではありません。でも、多読はリーディング・プログラムの大きな部分を占めるべきなのです。多読だけでは効果が出にくいかもしれないので、精読をしたり、リーディング・スキルをつけたり、語彙を増やすことも必要です。しかし、例えば、ヘレン・ケラーのテキストのように語彙と文法の力を伸ばすことに焦点を当てている難しいテキストを精読するだけで終わってしまえば、流ちょうで自信のあるリーディングは出来なんでしょう。

なぜ、多読が必要なのでしょう？

学習者が多読をしていかなければならない理由は、たくさんあります。

第一に、もし学習者が自分の今のレベルでリーディングを続ければ、単語を処理する時間が早くなり、単語を自動的に認識出来るようになります。そして、学習者はもっと速く読めるようになるのです。速く読めるようになるにつれて、単語を固まりで見ることが出来るようになります。学習者は、テキストを単語から単語ではなくて、アイデアからアイデアと読み進められて、流ちょうさが身につくのです。速く読めるようになれば、内容を理解する力も伸びます。

リーディングの流ちょうさと自信をつけるために、自分のレベルか、もしくはそれより下のレベルのテキストを読むべきです。

第二に、日本で行われた日本人学習者対象の研究では、多読によって学習者はリーディングに自信がついて、もっと読みたいという動機が加わることが分かりました。その理由は簡単です。このレベルの学習者にとって、リーディングはもう難しくはないからです。

第三に、多読によって学習者は、リーディングの習慣を作り上げていきます。この習慣は、母語以外の言語を練習する機会にあまり多く恵まれない日本人学習者にとって、役に立つの

です。読む習慣が一度身につけば、一生忘れないものになるでしょうし、教師や教室に恵まれない場合でも、第二言語をさらに向上させることができるのです。

第四に、私たちの脳はパターンを認識することに極めて優れています。混沌の中からパターンを作り出し、理解しようとする働きがあります。私たちは、行動、自然、音楽、そしてもちろん言語の中にも、パターンを見つけようとします。たくさんの外国語に触れて、初めて脳がそのパターンを見つけ出すのです。多読によって新しい言語項目に気づき、テキストの中のパターンやフレーズの中のパターンに慣れる機会を得ることが出来ます。精読において新しい言語項目を指摘してもらえば、学習者は多読においてその言語項目に何回も気づくことが出来るのです。

単語を自動認識してゆく
近道はありません。
グレイディッド・リーダー
を使って、その練習を
しましょう。

第五に、単語を覚えるには、何回も繰り返し眼にする必要があることは誰でも知っています。ある研究によると、平均的な難易度の単語を習得するためには、15回から20回は眼にする必要があるといいます。ですから、完全に自分のものにしていない単語を習得するには、何回も繰り返して出会うことが必要です。多読はこうした機会を与えてくれます。なぜなら、学習者は莫大な量の言語項目に触れますし、その未だ習得途中にある単語や文法項目が、意味のある文脈中に繰り返し出てくるからです。

単語から単語へと読むリーディングとは、何でしょうか？

また、アイデアからアイデアへと読んでいくリーディングとは、何でしょうか？

リーディング・スキルが発達していくと、学習者が単語よりもアイデアをプロセス（内容を自分なりに理解）することが出来る段階が来ます。学習者が初めて英文を読む時、まず一個一個の文字を認識していき、次に一つ一つの単語を理解していきます。これでは、読む行為が遅くなります。次の文を見てみましょう。

The old man took his dog to the park

初級者は、一つ一つの単語を読んでいって、合計9つのアイテムを読んでいくこととなります。もし、この作業が遅ければ、文を読み終わった時には、最初の単語を忘れてしまっているでしょうから、もう一回読み直しをしなければならなくなります。『湖水地方』のテキストを読んだ時にも、同じようなことが起こったと思います。文を読み直すと、単語を思い出すスピードは早まります。ある特定の単語に定期的に何回も出会えば、これらの単語を苦勞なくひとりでの読めるようになります。

リーディング能力が発達する過程において、いつか必ず単語にアクセスする時間が速くなり、いくつかの単語を一つの塊として見えてくる時期があります。例えば、同じ文でも速く読む学習者は、9つの個々の単語ではなく、それぞれ3つから成る3つのグループとして読めるのです。

The old man took his dog to the park

よく見ると、これらのグループはそれぞれが、一つのアイデアになっています。このレベルの学習者は理想的な段階に到達したことを意味しています。

学習者がアイデアで読めるレベルに達しているということは、単語ではなく、アイデアを把握しているのです。普通、誰かからメッセージを貰った場合、使われていた実際の単語ではなく、その内容を覚えているものです。ですから、学習者が速く読むと理解も良くなり、さらに多くのことを覚えられます。

多読は、授業外で行われます。
授業時間内に使う時間は
ごくわずかです。

このために学習者には、読んでいく時に、指で追っていかないように、指示してください。指追いをすると、単語を一塊りで見るとはならず、単語を一つずつ目で追っていく作業になるからです。

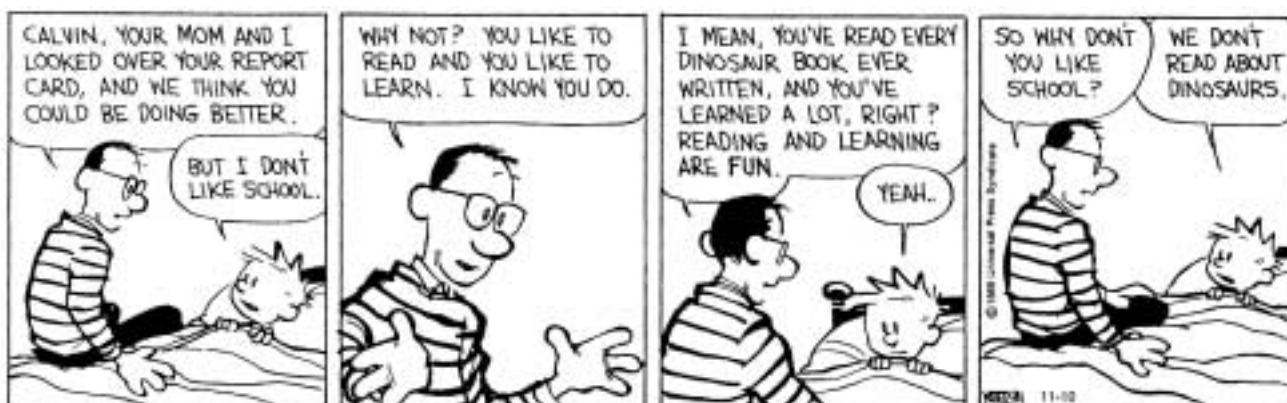
多読は、どのようにするのでしょうか？

一般的に多読は、リーダーもしくはグレイディッド・リーダーと呼ばれる簡易本を使って行われます。

グレイディッド・リーダーとは、何でしょうか？

グレイディッド・リーダーは、リーダーと呼ばれたり、ベイスル・リーダーと呼ばれますが、特に学習者がリーディングの力を伸ばすために書かれた本のことです。これらの本は、語彙や文法を簡易化して、学習者が読むときの抵抗感を小さくして、物語を簡単に理解できるようにしてあります。だからといって、グレイディッド・リーダーは、子供用の本ではありません。もちろんティーン・エイジャーや子供用に用意された本もありますが、ほとんどは大人の学習者のために書かれたものです。

グレイディッド・リーダーは、語彙や文法をレベル別に制限して、特定の難易度を設定しています。この小冊子の裏表紙の内側に、オックスフォード大学出版局グレイディッド・リーダーのレベル範囲が書いてあります。例えば、日常よく使う 400 個の単語を使って書かれた本があります。これは、400 の違った word family を指しています。(word family とは、基本的な意味を共有する単語のグループのことを言います。例えば、help の word family は、



CALVIN AND HOBBS ©Watterson.

Reprinted with permission of UNIVERSAL PRESS SYDICATE. All rights reserved.

help, helpless, helplessness, unhelpful, helped, helping があります。)また、もう少し難しい本になると、1000 個の日常よく使う単語と、もう少し難しい文法項目が出てきます。ほとんどのグレイディッド・リーダーには、本の巻尾に読解問題とその物語に必要な用語集が用意されています。

グレイディッド・リーダーを読み進める時には、初級者は一番簡単なものから読み始めて、スムーズによく理解しながら読むことを学びます。そのレベルが十分にこなせたら、次に難易度の高いレベルに移ります。これを続けていって、やっと聡子の読んだアメリカ文学のような本にまで到達するのです。

語学学習者のためには、何百冊ものグレイディッド・リーダーが用意されています。

どんな種類のグレイディッド・リーダーがあるのでしょうか？

語学学習者用には、何千点ものグレイディッド・リーダーが用意されています。オックスフォード大学出版局では、日本において何百点も出版しています。ノンフィクションと同じように、スリラー、探偵物、ミステリー、フィクション、英文学古典作品の簡易化版などがあります。詳細は、オックスフォード大学出版局のカタログか、この小冊子の裏表紙の内側を参照して下さい。

ネイティブ・スピーカーが使うレベルの難しいテキストではなくて、どうして、グレイディッド・リーダーを使うのでしょうか？

リーディング・スキルを伸ばす秘訣の一つに、速く読んで、アイデアを掴みながら読み進む方法があります。もし、学習者がテキストが難しすぎるため、ゆっくり読んでいたら目の動きは遅くなり、単語を塊りで捉えることは出来ません。

改作されていない本を読むべきではないのでしょうか？

テキストのタイプは、読む目的によって違うものだ覚えておかなければいけません。もし、流ちょうさや自信をつけることが目的ならば、難しいテキストを読んでいても、それは達成できません。従って、スムーズに読むための訓練では、学習者がそのテキストのレベルに達していなければ、改作されていないテキストは適切ではありません。改作されていないテキ

普通の難易度の単語は、15 回から 20 回出会わないと習得されないという研究があります。

ストは、精読には役に立ちますが、それでもそうしたテキストを有効に役立てることが出来るのは、かなり実力のある学習者ですし、全ての学習者に向いているわけではありません。

どの語彙と文法を教えるのか、気を付けて選ばないといけませんか？

はい、十分に気を付けて下さい。学習者が単語やその言語特有のパターンを忘れる大きな理由は、学習した後すぐにその単語が出てくることがないからです。大抵の場合、新しく習った単語が、テキストの後の方で出てくることがないようです。言語に関する知識はとても不

安定で、記憶からすぐに消えてしまいます。ですから学習者は、その言語項目に繰り返し出会うことが必要です。そうでないと、無駄な努力になります。日常よく使う単語は、学習者が「知っている」と言えるまでに、何回も出会っていただかなければならないのです。これは、その単語を使って話したり書いたり出来るということの意味しているのではありません。おそらく学習者は、見て意味を掴む程度にしかその単語を自分のものにしていないでしょう。文法項目に至っては、単語の場合よりも、ずっと頻繁に出会わなければならないのです。

学習者は多読によって言語項目に多く触れることになりやすから、新しい言語項目を習得する見込みが高いわけです。しかし、もし学習者がヘレン・ケラーのテキストのような色々な題材を扱ったテキストを読んでいたら、新しい言語項目にすぐ出会う可能性がとても低くなり、その言語項目の記憶を強固なものに出来ません。

教師の役割というのは、学習者がこの後ですぐに出会う新しい言語項目を紹介することなのです。もし、学習者が 1000 語の最もよく使う単語レベルのテキストで苦労しながら、多読をしているところに、教師が単語の難易度を急に上げて、5000 語レベルの単語を導入したら、学習者はその単語を習得する可能性は低いのです。教師が導入した単語に再び出会う機会が極めて少ないためです。従って、精読のクラスでは、学習者にはもう一度出会う可能性の高い単語や言語項目を紹介することが大切です。

教えることで、習得を促すことは出来ません。
教師の役割は、自主的な学習者のための
環境を作り上げることなのです。

どのくらいの量を読むべきでしょうか？

過去の研究によると、学習者は自分のレベルの本を週に一冊読んでいくのが理想的であるとされています。こうすることによって、学習者は新しい言語項目に何回も出会い、記憶を失なうことはないのです。習得を促すには、更に多く読めばより効果的なことは、当然なことなのですが、読書量がこれに達しない場合には、新しい言語項目を記憶に留めておくことが出来ません。学習者が言語パターンや語彙にそれほど頻繁に出会うことがないからなのです。

必要な読書量は、時間に換算して週に 90 ~ 120 分、もしくは、一日に 15 分間という計算になります。グレイディッド・リーダーの初級のレベルは、絵も多く文字も大きくなっていますが、難しいレベルになるにつれ 1 頁の単語数が増え、絵も少なくなります。したがって、レベルが低い本ほど、短い時間で読めるわけです。

いつ、どこで、リーディングをするのでしょうか？

多読は、本来は授業以外で実行するものなので、自宅とか、学校へ行くバスの中で行います。しかし、時間さえ許せば、通常の授業時間内でも多読は出来ます。この頃は、多読のクラスを特別に設ける学校や大学が増えてきました。

新しい言語項目を学習したり、内容理解を細かくチェックするという精読や、リーディング・スキルを導入するのは、授業中にすべきことです。

多読における理想的な難易度というのは、どのくらいでしょうか？

もし、単語を自動的に認識し、アイデアで掴んで読むことを目的とするならば、学習者は難易度を自分のレベルか、もしくは少し下のレベルに設定すべきです。学習者が自動的に単語を認識できるようになるには、テキストが易しいと思える程度でなければなりません。

学生が自分のレベルを知る簡単な方法をお教えしましょう。

- 1ページに、知らない単語がせいぜい2～3個しかないこと。
- 学習者は、1分間に8～10行以上読むこと（分速80～100語以上）
リーディングのスピードがそのレベルまで上がれば、例えば、分速150語で読んで、内容理解も良くできている場合、次のレベルに移ることが出来ます。

学習者は自分のリーディングのレベルを、どうやって、知ることができますか？

簡単な方法があります。教師が、いくつかあるレベルのテキストを、それぞれ1ページだけコピーします。例えば、6レベルあれば6ページになるのですが、それを1枚の大きなシートに印刷します。学習者にそのシートを渡し、その中のどのレベルでも1分間に80から100語で読み、1ページに知らない単語が2語から3語しかないレベルを探させるのです。まずは、学習者に自分のレベルより1ランク下のレベルから始めさせ、長いテキストを自信を持って読ませることが良いでしょう。それぞれの学習者が読みたいものを自分で選ぶのであって、全ての学習者が同じレベルのテキストを読む訳ではないのです。学生がこれまで一緒に勉強してきたからといって、すべての学生が同じレベルのテキストを読めるというわけではないことを覚えておく必要があります。

読むものが難しすぎた場合、問題になるでしょうか？

おそらく問題になるでしょうが、それはそのリーディングの目的によります。もし、目的が新しい言語項目の学習にあるならば、新しい言語項目に注目しながら、ゆっくり注意深く読むことも役に立つ学習活動となります。しかし、それは学習したことがすぐにまた出てくる場合です。そうでなければ、ただちに記憶から失われてしまいます。しかし、もしリーディングの目的が、リーディングのスピードを上げ、ますますスムーズに読めて、なおかつ自信

過去の研究では、学習者は自分のレベルの本を週に一冊読むことが理想的であると言っています。

を持たせることにあるならば、学習者自身のレベルか、少し下のレベルで読ませるべきです。もし、読む本が難しすぎると、

- 学習者は目の動きを速くして、テキストをアイデアで掴んでいくスムーズなリーディングが出来なくなります。
- 学習者は、単語を自動認識していくことが出来なくなります。
- 学習者は、リーディングの自信や動機を失うかもしれません。
- 学習者は、欲求不満になったり、疲労感を覚えたり、退屈したり、読むこと自体を諦めりするかもしれません。

学習者の中には、もっと新しい言語項目に触れれば、たくさん習得できると信じて、自分の現在のレベルよりも難しいテキストを読みたがる人もいるかもしれません。確かにそうなのですが、こうした学習者がスムーズに読めるように育つのは、大変難しいことです。こうした学習者には、流ちょうさを伸ばす練習も必要なのだと強調してあげることが大切です。

多読をどうやって評価しますか？

学習者はそれぞれ違ったレベルの本を読んでいますから、教師にはそれぞれの学生のリーディングの成果をテストする時間はありません。しかし、オックスフォード大学出版局は、読解テストの付いた無料の小冊子を用意して先生方を手助けしています。ご希望の方は、本の裏表紙の内側を参照して下さい。

多読を評価する方法はたくさんあるのです。しかし、忘れてはならないのは、ここでの目的は学習者に多読を促し、流ちょうさを増す訓練をさせて、リーディングに自信を持たせ、楽しませることです。従って学習者は、テキストの内容がよくわかっていなければいけないのですが、100%の理解は必要はないのです。学習者のリーディングを評価する方法がいくつかあります。

- 本を読んだということを証明するブック・レポートや要約を書く。
- クラス討論の中で、読んだ本のことについて話す。
- 教師は、1学期や1セメスターに読むページ数を指定し、読んだ量によって成績をつける。

オックスフォード大学出版局日本支社の website では、この他たくさんの方の方法を紹介しています。

学習者は、いつからグレイディッド・リーダーを読み始めることができますか？

グレイディッド・リーダーを読み始める前に、100 ~ 200 語の基本的な単語を習得しておき、印刷された単語を認識できなければなりません。これらの単語は、最初のグレイディッド・リーダーで出会うよく使う重要な単語なのです。初めは最も簡単なグレイディッド・リーダーから読み始めて、スピードがいたら、次のレベルに移ることになります。

子供でも、グレイディッド・リーダーを読めますか？

子供が読む場合には、いくらかの基本的な単語を習得し、認識できなければなりません。音と綴りのパターンを合わせる訓練をしなければなりません。例えば、male, lace, date の中の a__e パターン、enough, laugh の中の gh などがあります。こうした練習がもたらす利点の一つに、新しい単語の発音を正しく推測出来たら、正しく聞き取ることも出来るということがあります。その推測が正しくなければ、正しく聞きとることは出来ないのです。オックスフォード大学出版局は、語彙の知識がわずかしかない子供用に、*The Reading Tree series* のような本も出版しています。

学習者にとって、その本が難しすぎるということが、教師にわかる方法がありますか？その本が難しすぎるということは、学習者自身が一番良くわかるのです。しかし、教師が気づく方法があります。

例えば、その学生が以下のような状況かどうか気に配ればよいのです。

- よく辞書を引いているか、グレイディッド・リーダーの巻尾にある用語集を見ている。
- 分速 80 語以下で読んでいる。
- 本の中に訳を書いている。
- 本に退屈したり、興味を失ったりしている。

そうはいつでも、その学習者が本当にその難しい本を楽しんでいるならば、学習者に読む習慣をつけさせるためにも、そのまま読ませておくのが良いのかもしれませんが。

グレイディッド・リーダーを購入する経費をどのようにして手に入れるのでしょうか？

経費を手に入れるには、いくつかの方法があります。どの学校にも教材を購入する予算がありますが、これは極めて有用な資金源です。しかし、学校から何の援助も得られない場合もあります。その時には、学習者の父兄に頼むのも一つの方策になります。教員が学生に ¥600 から ¥800 の本を買わせて、全員で共有するのです。コースが終わった時に、多読ラ

一度、学習者が読む習慣をつけたら、生涯その習慣を持ち続け、教師がいなくても、授業に出なくても、第二言語を絶えず磨いていくことになります。

イブラリに寄付してもらうように頼みます。紛失したり損傷したりした場合の補償分や、ライブラリを改善したり、新刊書を加えたりするために、常に資金源は確保しなければなりません。まとめ買いが安くなります。

どこに行けば、グレイディッド・リーダーが購入出来ますか？

英語の本を扱っている全ての書店で、オックスフォード大学出版局のグレイディッド・リーダーを購入出来ます。詳細は、オックスフォード大学出版局にお問い合わせ下さい。

オックスフォード大学出版局から他にどのような補助教材が出版されていますか？

オックスフォード大学出版局では、オックスフォード・ブックワームズ・ライブラリ・シリーズの補助教材として、教師用ガイド、アクティビティ・ワークシートを用意しています。

————— どんなリーディング・スキルや方略が必要なのでしょうか？ —————

おそらく、リーディングにおいて最も見過ごされている点は、リーディング・スキルや方略でしょう。今までの研究では、リーディングが不得手の学習者は持っているリーディング・スキルや方略の数が少ないという結果が出ています。リーディング・スキルや方略には、次

のことが含まれます。

- 文脈から新しい単語の意味を推測する。
- 正しい辞書の使い方を学ぶ（おそらく、これが一番理解されていない点でしょう）
- 綴りと音との繋がりのパターンを覚える
- テキスト全体のトピックとパラグラフのトピックを見つける
- テキスト全体のメイン・アイデアとパラグラフのメイン・アイデアを見つける。
- 接頭語や接尾辞に関する知識を増やす。
- 代名詞や同義語がテキストの他の部分を指していることに気づく。
- スピード・リーディングや時間を定めたリーディングの練習。
- テキスト・タイプやジャンルを理解する。
- テキストをどのように評価するのかを理解する。
- テキストの中の書かれていないメッセージを推測する。

他にもたくさんあります。

リーディング・プログラムを成功させるためには精読と多読、語彙の訓練やリーディング・スキルの訓練をうまく組み合わせていく必要があります。

教師が学習者に提供するための練習問題も website に用意しています。オックスフォード大学出版局のほとんどの学習者用辞書には、学習者が辞書を正しく使うための練習問題が用意されています。

——— 学校のカリキュラムに多読をどのように組み込んでいけますか？ ———

公立私立を問わず、様々に違った形の学校でも多読をカリキュラムに組み込める方法があります。多読は基本的に課外活動であり、授業時間に必要なのは、ライブラリの運営をすることだけなのです。つまり、多読はどんなカリキュラムにも合います。多読の必要性を説明したり、プログラムを設定したりすることで、一つの授業時間のうち 30 分間と、その後、毎週 5 分間だけ使えばよいのです。（詳細については、この後の多読プログラムの設定と運営の仕方の項をご覧ください。）

ホームルームの時間に、ライブラリの運営をする教師もいますし、リーディング・クラブを始める教師もいます。オーラル・コミュニケーションやライティングの準備のために生徒に多読を勧める教師もいます。そして、そういったクラスで学生は、読んだ本の説明をしたり、ストーリーについて話し合ったりします。多読授業を実践している教師のほとんどは、そのような学生通しの交流を通常のリーディングの授業の一部としています。

多読プログラムの設定と運営の仕方

まず、どんな多読プログラムも、それだけでは完全なものとなり得ません。リーディング・プログラムの成功の秘訣は、バランスです。精読に片寄りすぎていては、リーディングの流ちょうさを増すことは出来ません。また、多読に片寄りすぎると、ある特定の言語項目に気づくことが出来ません。リーディング・スキルだけを訓練していても、リーディングの流ちょうさを練習することにはなりません。語彙のサポートが十分ではないと、速く読めなくな

ってしまいます。次に挙げるのは、様々な種類のリーディングのバランスを取っていくための一つの提案です。

授業中

- 精読（文法、語彙の勉強）..... 20 %
- リーディング・スキルや方略 10 ~ 15 %

授業外

- 多読 55 ~ 65 %
- 語彙の練習（家での単語や熟語の勉強）... 5 ~ 10 %

多読プログラムを設定するとき、「初めは少しだとしても、後で大きく膨らませるように」を心がけましょう。

多読プログラムを上手に作成するには、計画と準備に時間をかけなければなりません。

多読プログラムを計画する

多読プログラムに関わりがあると思われる人の全てに加わってもらう必要があります。その人たち全てに、学習目標や学習活動の内容を示す行動目標を知らせる必要があります。設定の際に全ての人に協力を仰ぎ、グループの中で決定をし、学習者も含めて、皆が理解出来るよう心がけて下さい。そうしないと、多読プログラムは「鈴木先生のプログラム」になってしまい、その鈴木先生が転勤してしまうと、消滅してしまうこととなります。

全ての教師が絶対に従わなければならない決まりを作る必要はありません。例えば、それぞれの教師が違った量のリーディングを生徒に課しても良いし、レポートの長さやタイプを変えることも自由です。また、違った評価形式を採っても良いのです。

準備

多読プログラムを設定する際にお勧めしたいことは、「はじめは少しでも、後で大きく膨らませることが出来るように」です。リーディング・プログラムが時間を経て変わっていくように、グレイディッド・リーダー・ライブラリの運営も考えなければいけないのです。

多読プログラムは、形式も規模も変えて運営することが出来ます。一クラスだけで行うこともあるし、いくつかのクラスが参加したりする場合もあるでしょう。全学校規模で行われたり、ことによったら学区全体を巻き込むこともあるでしょう。ですから、何をするのかを決定する時に、先のことまで考慮しておかなければいけません。最終的に多読プログラムをどのように展開していくのか、前もって考えておかなければいけません。

a)ライブラリを準備する

効率よく準備をするためには、前もって十分に計画を練る事です。図書館がグレイディッド・リーダーを管理する学校もあります。これが最良の方法なのですが、多くの図書館ではこれ以上の貸し出しや返却、及び棚の整理をしてくれるだけの人材もないし、場所の余裕もありません。

図書館のサポートが得られない時には、自分でライブラリの運営を設定しなければなりません。次に挙げるのは、多読プログラムの規模が大きくなるにつれて拡大できるようなシステムです。もし、いくつかのクラスでグレイディッド・リーダーを使うならば、共通のストック運営システムを考えた方がよいかもしれません。

1. グレイディッド・リーダーを購入する。手始めに、一人につき1冊はリーダーを手に入れること。本が紛失した場合のことを考えて、余分に購入すること。これで、学習者間の交換が可能になります。しばらくしてから一人につき2～3冊の本が行きわたるように、ライブラリを作っていきます。
2. 本に番号を振ること。同じ本が数冊ある場合には、楽に確認できますし、貸し出しも簡単になります。わかりやすい場所に番号を振って下さい。
3. 何らかの方法で、本のグレードを決めて下さい。オックスフォード大学出版局は難易度をはっきり出していますが、そのレベル分けは出版社によって違っていています。出版社では中級とか初級とかでレベルを分けていますが、これも出版社によって意味合いが違っていています。ですから、グレードは、教師が自分で決めなければいけません。

この決め方の指標になるのは、それぞれの本で使われている headword と呼ばれる語の数です。例えば、Oxford Bookworms Series (裏表紙の内側参照) の6レベルを使っても良いですし、学習者に合わせてそのレベルを変えても良いのです。学生の多くがリーディングが不得手の場合には、もっと簡単なレベルを加えても良いでしょう。絵とテキストの比率を考慮に入れている教師もいます。「簡単」なものから「大変難しい」ものまで、6つから8つのレベルを用意して下さい。

4. それぞれのレベルに、色を割り当てること。例えば、400語レベルには黄色、700語レベルには青というように。本の背表紙にカラーテープを張ったら、学生は自分のレベルの本を簡単に見つけることが出来ます。もし、同じ色の本を全て一つの箱にまとめて置いて置いたら、ライブラリは簡単に運営できます。著者別とか本の番号別に並べておく必要はありません。その色の箱に入れておくだけでよいのです。最も面白い本は、いつでも箱の上の方にあることになります。

b) 貸し出しのシステムを作る

一番簡単な貸し出し方法は、全ての学習者が同時に、貸し出しと返却をすることです。本の管理シートの見本を次に挙げましょう。4月26日の分のシートです。

Name	April 5	April 12	April 19	April 26	May 3
Irie, Yoshiko	256	875	964	771	
Ogawa, Jun	89	687	332	158	
Kawabata, Hiromi	358	473	865	483	
etc.					

学習者は、本を借り出す時、その日付の欄に本の番号を書き込みます。授業の始めに、学習者は「落とし箱」に本を戻します。授業中に時間を見計らって、教師は貸し出しシートを見て、どの本が返ってきてないかをチェックします。教師がシートから本の番号を線で消した時に、その本がライブラリに戻ったこととなります。この方法を採用すると、どの本が貸し出されて、どの本が返却されたかがすぐに分かります。入江さんは、まだ先週までに借りた二冊を返していません。小川さんはまだ先週の本を返していませんが、川端さんは全部返しています。もし、大きなクラスを教えていて、学生が一斉に返却をする場合を考えると、一枚におよそ10人の名前が書ける貸し出しシートを数枚用意した方がよいでしょう。それぞれの貸し出しシートに違った色をつけていたら、すぐ見分けられます。

もしくは、学習者の人格を尊重して、次のような貸し出しシートを作ることができます。

Name	Title	Book number	Date borrowed	Date returned
<i>Irie, Yoshiko</i>	<i>The Elephant Man</i>	589	April 13	April 20
<i>Ogawa, Jun</i>	<i>White Death</i>	478	April 13	
<i>Kawabata, Hiromi</i>	<i>Karen Silkwood</i>	339	April 20	April 26

このシステムを使うと、安全性は極めて低くなり、何冊かは本を紛失することになります。シートが何枚もあると、学習者が自分の名前を探すのも時間がかかります。

全ての学習者が、例えば一週間に一度、一斉に本を換えることが理想的です。学生が本の返却を忘れていたら、翌週まで持つておくように言ってください。さもないと、收拾がつか

オックスフォード大学出版局日本支社のウェブサイトで、学習者のリーディングの成果を測る方法を見つけてください。

くなります。いつも貸し出しシステムを使って本を戻すようにして下さい。学生同士で交換したりすると、誰がどの本を持っているのか分からなくなります。

c) リーディング・サマリー・シートを作る

教師は、誰がどのレベルの何の本を何ページ読んでいるのか、知っておかなければいけない時があります。それは、学生のリーディングをモニターしたり、評価したりするためです。次に挙げるのが、教師が一目でチェック出来るリーディング・サマリー・シートです。学生各自にコースの終了時までこのシートを管理させます。

Name: *Yoshiko Irie* Student Number: 001223 Starting Reading level: *Pink*

Title	Book number	Book Colour	Date borrowed	Date returned	Number of pages read
<i>The Elephant Man</i>	589	<i>Pink</i>	April 13	April 20	35
<i>White Death</i>	478	<i>Pink</i>	April 20	April 27	58
<i>Tales of Mystery and Imagination</i>	339	<i>Green</i>	April 27		
					Total pages

d) プレイメント・テストを作る

プレイメント・テストを作って、学習者がどの色のレベルを読んだらよいのかを、教えてあげなければいけません。

e) リーディング・レポートのアウトラインを作る

リーディングが確実に行われ、さらにライティングにうまくつなげていくために、読んだ本のリーディング・レポートを書かせている教師は大勢います。学習者が読んだものについて測る方法は他にもありますが、レポートを書かせる方法が一番よく使われているでしょう。(他の方法については、オックスフォード大学出版局の website をご覧ください。) レポートは日本語でも英語でも良いのです。英語でレポートを書かせることはライティングの練習になりますし、そのレポートは授業中に読んだ本について話すときの助けとなります。日誌の形式で書かせても良いでしょうし、一枚一枚のレポートとして提出しても良いのです。

初級者に対しては、穴埋め式の文章を提示します。例えば、次のようなものです。

My favorite character was. . . . because

The part of the story I liked best was when. . . . because

これに加えて、日本語で要約を書くこともできますし、日本語の要約だけ書いても良いでしょう。

中級レベルの学習者には、英語で要約を書かせます。

例えば、次のような要約になります。

This book was about a young boy who had lost his mother. One day the boy found a magic mushroom in a forest. He showed it to his father who then

上級レベルの学習者には、要約と共に感想も書いてもらいます。

もし、学生同士がお互いのレポートを写し合いをすることがないのであれば、学期の終わりにこのレポートをリーディング・サマリー・シートと一緒に集めたら良いでしょう。学生には一つのレポート作成に 15 分以上かけないように言って下さい。そんなに時間をかけるくらいなら、リーディングに時間をかけた方がよいのです。

授業手順

次に挙げるのは、授業の手順を示したものです。

■ 最初の授業

1. 学習者に多読と精読の違いと、多読が必要な理由を説明します。また、家で読んでいる時に出てくる語彙を覚えることが必要であることや、リーディング・スキルや方略を伸ばす練習も大切であると伝えます。
2. 学習者にリーディング・プログラムの学習目標と、その活動内容を示す行動目標を説明します。

3. グレイディッド・リーダーを数点見せて、難易度や色分けや用語集など、主な特徴を説明します。
4. 読むページ数を指定します。一学期に 300 ページから 500 ページとか、ページ数を指定することが良いと主張する教師もいますし、ある一定の数の本を読むことを勧める教師もいます。どちらにしても、学習者のレベルを考慮しなければなりませんし、読書に使える時間も考えなければいけません。簡単な本は文字が大きく、挿し絵があり短いのですが、難しい本は中味が多く詰まっていて、挿し絵はほとんどなくて、ページ数も多いのです。
5. 貸し出しの手順を説明します。
6. 評価方法を説明します。(ブック・レポートやクラスでの討論など)
7. ガイドラインに沿って、本を選ぶ際の注意点を説明します。
8. リーディング・サマリー・シートについて説明します。

■ 家でのリーディング

学習者は本を読み、必要な場合にはレポートを書きます。リーディング・サマリー・シートにも書き込みます。

■ 第二時間目以降の授業

本が返却され、再び貸し出されます。学習者は自分が読んだ内容について話し合い、時間が許せば、ライティングの授業のための基礎として使います。

最後の授業

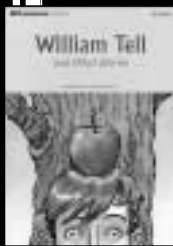
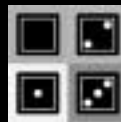
全ての本を返却させ、リーディング記録シートを提出させます。

多読プログラムの評価

他の授業と同様に、2～3週目が過ぎたくらいで、変更した方がよい点があるかどうかを検討します。関係者全てにその変更点を了解してもらうことも必要です。

本を選ぶ際のガイドライン

- 学習者にとって面白いこと。
- 学習者が分速 80 語以上のスピードで読めること。
- 1 ページに知らない単語が 2 ～ 3 語しか出てこないこと。



Readers Starter, 1, 2, 3: ¥ 680
 Readers Cassettes Starter, 1, 2: ¥ 1,500
 Readers Cassette 3: ¥ 3,000

The complete selection



Readers: ¥ 480
 Cassettes: ¥ 1,500
 Starter Bestseller Pack: ¥ 4,300



Readers Stages 1, 2: ¥ 580
 Cassettes Stages 1, 2: ¥ 1,500



Readers Stages 1-3: ¥ 580
 Readers Stages 4-6: ¥ 680
 Cassettes: 1-Cassette Packs: ¥ 1,500
 2-Cassette Packs: ¥ 3,000
 3-Cassette Packs: ¥ 4,500



Readers Stages 1-3: ¥ 580
 Readers Stages 4, 5: ¥ 680
 Cassettes Stages 1-5: ¥ 1,500

...ore sup
 ...nts. Do
 ...ally an

ghout
 e

- Stage 6: 2500 HEADWORDS
- Stage 5: 1800 HEADWORDS
- Stage 4: 1400 HEADWORDS
- Stage 3: 1000 HEADWORDS
- Stage 2: 700 HEADWORDS
- Stage 1: 400 HEADWORDS
- Starters: 250 HEADWORDS

「日本語版指導の手引き」がご利用いただけるタイトル

Business Venture

J-Talk

Learners' Dictionaries

New American Streamline

New Person to Person

New Headway

Open House

Oxford Graded Readers

Passport

The Oxford Picture Dictionary

Tactics for Listening

Words in Motion

How to teach the TOEIC® test

英語教育に携わる大学の先生方のために



オックスフォード・キャンパス・サポート・サービス

大学の英語の先生の具体的なご要望にお応えする、先生のための会員制組織です。

- ▶ 小社のウェブ・サイトの「会員専用」サイトにアクセスできます。ここには貴重な提案や、指導に役立つ内容が載っています。
- ▶ ご興味のある専門の分野についての新刊の採用検討見本が送られます。
- ▶ ご採用の際にはスチューデント・ブック、聴覚教材、ティーチャーズ・ブックを含む、無料の「ティーチャーズ・サポート・パック」が送られます。
- ▶ 大学内や地域での教師仲間を通して、「ブック・ルック」(小社のレプレゼンタティブによる新刊書の説明会)の開催を要請できます。

入会金・会費は一切無料です。
www.oupjapan.co.jp
より、今すぐご登録下さい!

OXFORD
UNIVERSITY PRESS